



講座のご案内

2023年 秋号

お申し込み



このご案内を見た方はどなたでも講座へ参加ができます。

〈ひとりから始める地域（まち）づくり〉企画 日常的にまちづくりを考えよう♪

越谷 まちあるき

埼玉県市民ネットワーク共催

市民活動が盛んで、市民ネットワーク越谷の議員が4人も誕生している元気なまちを歩きます。今回は、古い蔵や商家をリノベーションしてカフェや子ども食堂などに再生された施設などを見学しながら、市民によるまちづくり活動や町の課題について学びます。お昼は地元野菜を使用したカフェでのランチを予定。(定員12名)



見学先のひとつはかり屋

11月9日(木) 10時~14時30分

午前10時 越谷駅改札口集合

(東武スカイツリーライン)

参加費: 2,300円 ※昼食代込み

案内: 山田ゆう子市議・辻こうじ県議

オンライン開催

わたしは「ひとり新聞社」

3.11被災地の大槌でやってきたこと

3.11の東日本大震災後に、ひとりで新聞社を立ち上げて岩手県大槌町の復興を見つめてきた菊池さん。ハード整備がすすむことが復興ではない、みんなが地域に関心を持ち、地域づくりを考え行動していかなければならない、という思いで今日も活動中の菊池さんに語ってもらいます。



11月18日(土) 13時30分~15時30分

参加費: 1,000円 ※事前にお振込みいただきます

おはなし: 菊池 由貴子さん



一社) 大槌新聞社代表理事。

1974年岩手県大槌町生まれ。

2011年12月地元のまちづくり団体に参加、12年6月大槌新聞創刊。

①お名前 ②電話番号

③メールアドレス

を明記の上メールでお申し込みください。

無理をせず損をしない、リフォームの進め方の極意 ~手順や費用、補助金のことなど

後悔しないリフォームの進め方のポイントを、事例を使ってご紹介。

リフォームの際に使える補助金についてもお伝えします。

(オンラインでの開催です、メールでお申し込みください)

10月21日(土)

13時30分~15時30分

参加費: 1,000円 ※事前お振込み

おはなし: NPO 木の家だいすきの会

NPO 木の家だいすきの会との共催です



10月25日(水) 14時~15時30分

読書会

「おひとりさまの老後」

読んでいても読んでいなくてもどうぞご参加ください。



食と環境カレッジ2023 第4回

身の周りの香害をなくすために ~一人ひとりができること

「香害」を引き起こすものは何なのか、健康被害を減らすために何をしたらよいのか、香害のお話しでは第一人者の講師にお話を伺います。

(オンラインまたは生活クラブ本部にて 生活クラブ生協との共催です)

11月16日(木) 10時~12時

講師: 田中輝子さん

日本消費者連盟 洗剤部会

参加費: 無料



お申し込み↑

11月20日(月) 14時~15時30分

「がんばっていること

がんばりたいと思うこと」

参加費無料、オンラインでのおしゃべりの場です。メールでお申し込みください。

報告

生活クラブ生協・大人の学校共催 〈食と環境カレッジ 2023〉 7月18日開催

『日本の食と農 ～現状と課題 そしてこれから』

食と環境カレッジ 2023 第2回の講師は農業ジャーナリストの榎田みどりさん。農業の厳しい現状を知るとともに、食べ支える消費者だけではなくこれからは「耕す市民」の時代であることを実感する講座となりました。



第1回フードマイレージの講座に続き、あらためて、減り続ける農業従事者数と進む高齢化、農業者の約7割が「後継者なし」という現状をふまえ、実際に取材した地域の状況や、取り組みなどを伺った。

見えてきたのは、消費者として「食べ支える」だけでは、農業は維持できない状況になりつつあり、これからは、まさに「生産」する消費者運動が必要になる、ということ。首都圏の食料自給率は、カロリーベースで東京0、神奈川2、埼玉10となっており、この数字を見て、私たちができることを考え行動しなくてはならない。食べ手も耕す、農家を手伝うなど「耕す市民」になること、「地縁」「知縁」でつながることなど、食の安全を保障を自分たちで作ることが求められている。

日本の各地域で見られる多様な担い手確保の動きは、島根県「半農半X」支援、長野県「長野県農ある暮らし」相談センター、神戸市マイクログリーンファーマーズスクールなど。さらに、地域住民や企業と連携、公務員副業など、農とかわる人材確保の仕組みや受け皿を作れば、農的人材はもつというはず！

具体的に「耕す市民」を育てるために、神奈川県JAはだの「小さな農の担い手」育成や福岡県糸島市の農サポーターやセミプロ・サポーター育成などがあちこちで生まれている。また、生協による農園開設、農業参画も増えているとわかり、少し明るい気持ちになった。農業ジャーナリストの大野和興さん曰く、「自作農解体の時代」だそうだ。いったいどうなっていくのだろうか？

大規模で少数の農業経営者が残っても、労働力問題を抱えている。一方で「そうではない農業を支えたい」という人々には、「知縁」で家族農業を支える提携や、スモールファーマー（耕す市民）という選択肢もあるとのこと。私たちも、体を動かしてプランターや庭、空き地の活用など、できるかたちで「耕す市民」への一歩を踏み出したいと思う。そのことは、たとえ小さな一歩でも地域の環境を守り、自分たち自身を守ることにつながる。

報告…吉田

報告

9月9日開催 オンライン講座
外国人と共に暮らすってどういうこと？ 川口芝園団地の現場から

川口市の芝園団地の住民として長年自治会事務局長を務めてこられた岡崎広樹さんに、「共存」と「共生」をキーワードに話を伺った。

現在市内には約4万人の外国人が住んでいるが、芝園団地では住民の半数を占める高齢者はほとんどが日本人、30代以下の世代のほとんどが外国人となっている。

しかし、生活習慣や文化の違い、世代差などから両住民には共通項が少なく、両者が自然に出会い、「共生」ができるようにはならず、岡崎さんは「開かれた自治会構想」を掲げ、外部の大学生による「芝園かけしプロジェクト」を発足した。交流活動を続けた結果、現在では自治会役員8人中5人が外国人となった。域外の第三者の力を借りることで少しづつ人間関係を築いていくことが「共生」につながった。

現在の日本社会では、隣近所が入れ替わり見知らぬ隣人が増え、「共生」したい人でさえも自然と出会えない状況が生まれている。隣近所の多文化共生の「鍵」として、出会いたい人が出会う「ゆるやかな共生」というステップを作り、その中で、「共生」っていいねという人が増えていき自然と「共生」に向かうことを岡崎さんは提案する。

報告…赤羽

※詳しくはホームページもご覧ください

大人の学校 スタッフのつぎやき

3月からシンガポールに住む娘一家を訪ね、1週間ほど滞在してきた。ごみの落ちていないクリーンな国、くらの予備知識で行った先は、意外とごみも落ちており、まちを歩き交う人はマレー系、中華系、インド系、西洋人…と雑駁としている。

まちは道幅広く歩道も広く、街路樹がゆったりと生い茂りそこかしこに熱帯植物が緑の葉をゆらしている。車は高価なのでもっぱら庶民の足はバスや地下鉄となるが、駅のホームは広くホームドアが完備され、バス停や周辺道路には道沿いに屋根があり突然の雨やもちろん日よけになり、バスの時刻表などはなくて次々にバスがスムーズにやってきてバスレーンを快適（けっこうスピードあり）に走る。

乗り物のなかで飲食する人は皆無、一度ヘッドフォンを耳にした長身女性が電車のなかで音楽に合わせて目をつぶり踊りに酔いしれていたが、一瞬目を向けてもみな知らん顔。

短い滞在だったが、受け入れられているという感覚、心が軽くなるような感覚を覚え、早くも再訪をもくろんでいる。（いーはとーび）

問い合わせ先

特定非営利活動法人 大人の学校

〒333-0857 川口市大字小谷場 206

生活クラブ生協内

電話/ファックス 048-423-3313

メール otonano-gakkou@cure.ocn.ne.jp

お電話の場合、不在のときは留守電にご用件を録音してください。折り返しご連絡いたします。